

ラオスってどんな国

樹脂部製造の北川です。

1月末にタイで実習生面接を行った後にラオス実習生送り出し機関の見学に行きました。

現在、タイから日本への技能実習生を希望する人が過去に比べて減少している事から、対応策としてタイ隣国でタイとも友好で言葉も通じ易いラオスからも実習生を雇用できないか検討するため送り出し機関の見学を行いました。

今回、ラオスの送り出し機関を見学して今後、実習生を受け入れる可能性が出てきた事から「ラオスってどんな国」と「送り出し機関の様子」を報告したいと思います。

ラオスの状況

インドシナ半島唯一の内陸国でメコン川流に位置するASEAN諸国のひとつであり、面積は日本の本州と同じくらいの約24万平方キロメートル。国土のほとんどが山岳地帯で首都ビエンチャン周辺とメコン川流域を中心に平地が広がっています。

東南アジアで唯一海に面していない内陸国でGDP一人当2,066ドル。(日本のGDPは3万3785ドル)

ASEAN諸国の中では貧しい国の一つです。

平均月収は首都部で約20,000円、山間部で数千円から1,000円です。

産業の中心は農業で就業人口の約60%を占めますが、山がちな国土のために経営規模が小さく、米作を中心とした自給自足農業が一般的です。

ラオスの賃金が低いことや、国内に就職先がないことを理由に、隣国のタイ等の外国に出稼ぎに行くラオス人も多いです。

基礎データ

面積	236,800km ²
人口	約758万人 (2023年推定値)
首都	ビエンチャン
政治体制	人民民主共和制
主な言語	ラオス語
主な宗教	仏教
通貨	キップ



季節

季節熱帯モンスーン気候（雨季5～10月、乾季11～4月）

一年を通して高温多湿、4月は最高気温が40度以上になることもある

雨季は朝晩の気温差が激しいこともある

歴史

ラオスの歴史は1353年にラオ人最初の統一国家であるランサーン王国が成立したところから始まり王政が続きますが1899年にフランスによりフランス領インドシナに編入され、第二次世界大戦後にフランス連合内のラオス王国として独立、1953年に完全独立を果たしました。その後、内戦が繰り返され、1975年に王政を廃して人民革命党による一党独裁体制の社会主義国家・ラオス人民民主共和国が成立し現在に至ります。

ラオス民族

ラオス民族の半数以上がラオ族で基本的に平野部で生活を行い、他の約50の少数民族が山間部での生活を行っています。

ラオ族はラオ語を使用しています。（ラオ語とタイ語は似ており通じやすい。）

ラオ語以外の言語はラオ語と異なり通じない。

ラオス 宗教

全人口の60%が仏教徒、特に低地ラオ人の90%は上座仏教を信仰している。

他にキリスト教、イスラム教、少数民族はアニミズム信仰（精霊信仰）と呪術、が信仰されている。

上座部仏教とは

お釈迦様の教えと戒律を厳格に守り、出家した僧侶が修行によって自身で悟り（解脱）を開くことを目指す、伝統的・保守的なスタイルが特徴です。

日本の仏教は上座部仏教とは異なり大乘仏教

大乘仏教はすべての生きとし生けるものの救済を目指します。

菩薩という概念を取り入れ、菩薩は修行する人だけでなく、悟りを求める人は誰でも菩薩になり、救済されるという教えです。



ラオスの教育

ラオスでは、約50もの民族で構成される使用言語(母語)の違いによる学力格差が教育的な課題として挙げられています。（ラオ語が公用語となり、教科書は全てラオ語）

ラオス語を母語とする「ラオ族」の教師が授業を行ったとしても、ラオス語以外を母語とする部族の生徒は、普段使う言語と学習言語が異なるため理解が難しい状況です。

たとえば、ラオ族のラオス語の識字率は93.3%に対して、少数民族の「アカ族」は36.2%です。そのため、アカ族の大半の子どもたちはラオス語を話せないまま、入学します。

アカ族の子どもがラオス語を学習する時間は確保されないため、特にラオス語(国語)の時間は、理解度に大きな差が生まれてしまいます。

また、山岳部の学校は屋根・壁が無い学校があり雨・風が吹けば授業は出来なくなります。

この事から民族によっては教育の格差が発生して貧困からの脱却が出来ない社会となっている。



ラオ族



モン族



カム族

ラオス人の気質

穏やかで忍耐強い：仏教に根ざした「争いを好まない」気質

ラオスは上座部仏教が国民の生活に深く根付いており、この宗教の教えはラオス人の気質に大きな影響を与えています。

上座部仏教の教義では、感情を抑え、他者との対立を避け、争いを好まないことが強調されています。このため、ラオス人は困難な状況や理不尽なことがあっても表立って不平不満を言うことは少なく、忍耐強く業務に取り組む傾向があります。

長所としては、業務がうまくいかない状況でも冷静に対応し、感情を荒げずに作業を続けられる点です。しかし、短所としては、問題が起きても表に出さず、内部で不満が積もることがあるため、早期に問題を認識し、対処することが求められます。



ラオス送り出し機関の様子

今回、見学したラオス送り出し機関はラオス実習生を日本へ一番多く送り出している機関でした。企業の面接を受けて実習が決まった実習生は寮に入寮して集団生活しながら日本語・生活習慣等（家電製品の使い方・ゴミの分別・ATMの使い方等）を約6か月間行い日本に出国。

（男女とも寮での生活となり毎朝、部屋の点検と体操を全員で実施して授業、食事は3食提供される）授業風景を見学しましたが全体的に女性の方が活発で男性は大人しいような雰囲気がありました。

ラオス実習生の生活はタイ実習生の10年前のレベルと聞いていましたが、それより、はるか昔のレベルのように感じました。（幹線道路から外れて市場等を見学しましたが）

ラオス実習生の外見は（成人でも）見た目より若く、みんな中学・高校生のように見えました。



送出機関



授業風景



宿舎風景



食堂風景

今後、日本の人手不足からタイ・ラオスからの実習生が職場に配属される事が増えると予想されますので仕事・生活面でサポート等を宜しくお願いします。